



ただの崖がけ

でもそれ断層だんそう

地球の歴史れきし

中央構造線ちゅうおうこうぞうせんは西南日本を東西に走る大きな断層だんそう。多気町内の五桂ごけいや丹生にの勢和せいわ・多気JCたけジャンク T付近ちかくなどでは断層が地表に現れている。

科学かがくの発達はつたつにより今まで見られなかったものを見ることのできるようになりました。人工衛星じんこうえいせいから送られてくる地図そのままの日本列島の画像がぞうはその一つです。

日本の左半分、多気町のある紀伊半島いはんとうから九州にかけて東西とうざいに筋があるように見えます。

これは長野県諏訪湖付近すわこふきんから伊勢湾せわん、志摩半島しまはんとうの二見辺りから紀ノ川のかわの谷、四国の吉野川よしのがわの谷を経て、九州まで、一〇〇〇き近くにわたり東西に伸びる日本列島最大の断層だんそう、*中央構造線ちゅうおうこうぞうせんです。

(*このあごはMTLと略りゃくします)

この絵は五桂ごけいの万協製薬ばんけいせいやく近くちかくのMTL多気露頭たけあきとつですが、他に同社の敷地しきちの斜面しめんや勢和多気JCせいわたけジャンク CT近ちかくくの丹生露頭にみろつなど多気町にはMTLが地表ちひょうに現れている。大変貴重たいげんじゆうな場所があります。地図では五桂池ごけい池の東側の山々が直

線状せんじょうに並ぶのが確認かくにんできます。

構造線こうぞうせんは両側りょうがわで地質ちしつが大きく異なる断層だんそうで、MTLは北側きたがわがマグマが冷えて固かたまった花崗岩かこうがんや変成へんせい岩がんが中心しんしんの領家帯りょうけたい、南側みなたがわが海の砂や泥どろなどの堆積物たいせきぶつが地下ちかに潜もくつてきた変成岩へんせいがんが分布ぶんぷしている三波川さんぱがわ帯たいの岩石がんせきになっていきます。

MTL沿ぞいにも現在の地殻変動ちかくへんどうにより多くの活断層かつだんそうが生じているといわれていますが、紀伊半島きいはんとうでは高見峠たかみとうげより東の三重県側みえがわはあまり活発かつぱつな活動かつどうをしていないということなのです。

最近さいきんは地震じしんや噴火ふんかが多く、プレートプレートや南海トラフなんかいなど地質学ちしつがくの用語ようごをよく耳みみにします。何枚なんまいものプレートプレートが接せつしていて、地震しんじく国こくといわれる日本にっぽんに住すむわたしたちは地球ちきゅうの歴史れきしを語かたっている足元あしもとの大地だいちにもっと目を向ける必要ひつやうがありそうです。



中世の城郭の跡

篠山城 咲くささ

ゆりは 町の花

南北朝時代、南朝重臣の北畠氏が国司だった伊勢では戦乱が各地であった。五箇篠山城はこの頃築かれた。新多気町の花はささゆり。

南北朝時代（一三三六〜一三九二）、南朝の重臣北畠氏が伊勢の国司であったため、南勢では戦闘が繰り広げられました。

五箇篠山城はこの頃、櫛田川の南岸にある標高一三七メートルの山頂に野呂氏により築かれたものと言われています。ただし、そのころの城は私たちが思い浮かべる石垣をめぐらした城ではなく、戦のための砦のようなものでした。

戦国時代になると北畠氏が国司として治める伊勢に織田信長が攻め入ります。最初は戦火を交えましたが、信長は次男の茶筌丸（信雄）を北畠氏の養子にし和睦を結びました。しかし六年後、天正4年に義

父の北畠具教を殺害させ、北畠氏を滅亡させたのです。

この時、京で僧になっていた具教の弟具親は伊勢に戻り信長方の軍勢に挑みますが破れてしまいます。本能寺の変を機に再び、五箇篠山城で拳兵しますが失敗。落城の際、具親の妻が夫の鎧兜を纏い馬を駆って敵を引きつけ、櫛田川に身を投げる間に夫を逃がしたという伝説があります。

篠山城は掘割で区切られたいくつもの曲輪が連なり、山腹には外敵の侵入を防ぐための豎堀が掘られています。木々の葉が落ちる季節に山を遠くから眺めると人工的に削られた山容が確認できます。

町史跡に指定されています。



津留橋の

下に見えてる

はかり岩

伊勢本街道櫛田川の津留の

渡しは水量が川中のはかり岩を越えると川止めになり、参宮帰りの人々は宿に泊まって水が減るのを待った。宿場町津留はいつも賑わっていた。

伊勢本街道は奈良の方から伊勢神宮へお参りする人が利用する道でした。

美杉村(現・津市)から飯

南町の櫃坂を越え櫛田川の

岸辺まで降りると、あとは

茅原まで川沿いに進みます。

ここで対岸の津留に渡り

ます。昔はどの川にでも橋

があつたわけではなく、取

り外しのできる橋板の簡単

な木橋や石を並べて飛び石

伝いに渡ることもありまし

た。櫛田川に両郡橋が架け

られたのは明治21年になっ

てからでした。

浅い川は徒歩で渡つたり、

津留のように渡しのある川

も多かつたようです。

茅原へ着いた旅人は舟に乗り津留へと渡ります。津留は櫛田川が鶴の頭のように大きく蛇行していることからついた名前とも言われています。

両岸に鉄線を張り渡しそれを手繰りながら舟を進めるのです。対岸はすぐ目の前ですが水量が川中のはかり岩を越えると川止めになり舟を出すこともできなくなります。両岸で旅人は宿に泊まり水が引くのを待たねばなりませんでした。

津留には多くの宿屋がありました。当時の屋号で呼ぶ家が今もあるようです。



天狗さん 長龍神事の

主役だよ

片野の八柱神社で行われる
長龍神事は五穀豊穰を祈って春
の大祭に奉納される。天狗が
長龍を退治したという出雲神
話を表現している。

永正十六年(一五一九)に創設されたという片野の八柱神社では春のお祭りに五穀豊穰(米や麦など)がたくさんとれることを祈る長龍神事が行われます。

四百年以上続く長龍神事は伊勢神宮にまつられている天照大神の弟、素戔嗚尊が登場します。天の岩戸のお話で大神が岩屋に閉じこもったのは素戔嗚の乱暴に怒ったことが原因でした。

このできごとの後、素戔嗚尊は神々の住む高天原から出雲(今の島根県)に追放されます。そこで八岐大蛇を退治し奇稲田姫を助けました。

長龍は八岐大蛇を表し、胴の長い獅子舞といった感じですね。天狗の赤い面をかぶって

いるのは素戔嗚。黒い面は彼の助っ人です。

伊勢・熊野・氏神に拝礼して始まります。不思議なお酒、キトク酒を飲むと天狗は強くなり、長龍は弱っていきます。

クシナダヒメは竹を編んで作った櫛に化身しています。鉄棒を持ち天狗はヒメや大蛇に食べられた子どもを助けようと戦う長龍狂乱です。天狗が勝ち、長龍がくわえた櫛を落としヒメは助かりました。長い

胴の中の子どもたちを引っ張り出す「尾とり」。長龍が逃がすまいとする様子を表し子供たちもなかなか出ようとせず、笑いに包まれ終わります。片野長龍神事保存会の人たちにより続けられています。



時をこえ

くまの 熊野へ続く

めきとうげ 女鬼峠

伊勢参宮が盛んになった江戸時代。参宮の後、熊野に詣でるため熊野街道を行く人が多くなった。女鬼峠は成川・相鹿瀬間。最頂部にはお堂があり道中の安全を祈った。

伊勢参宮が盛んになった江戸時代。参宮の後、熊野に詣でるため熊野街道を行く人が多くなりました。

は紀伊半島の東側を南下します。田丸で伊勢本街道を離れ外城田地区の野中を通ると「左*さいごく道」という追分の道標があります。

しかしそれよりも昔、「蟻ありの熊野詣」という言葉

すぐ熊野街道の最初の難関女鬼峠です。成川と相鹿瀬の間、峠のお堂には如意輪観音が祀られています。

ができるほど熊野参詣が流行したことがありました。それは平安時代末から鎌倉時代にかけて、最初は皇族

「伊勢に七度、熊野に三度」という言葉があったほど、熊野も誰もが訪れたいと願う憧れの地でした。

や貴族たち、さらには武士、庶民へと熊野信仰が広がり、列を作って歩くように大勢

そのような祈りの道、熊野古道は吉野や高野山とともに「紀伊山地の霊場と参詣道」として平成16年世界遺産に登録されています。

の人が熊野三山を目指したのです。この時の道は都から紀伊半島の内部を通り熊野へ南下する道でした。

伊勢参宮から転じて熊野を目指す「熊野古道伊勢路」